

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4392700235		
法人名	小国町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原425-8		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

小さな町にある施設ということで、利用者・ご家族と職員が顔見知りのことも多くなんでも話すことが出来る間柄であったり、職員もご家族に積極的に話しかけ信頼関係を築くことでご家族のいろいろな思いや不安など聴くことが出来てきている。コロナ禍で面会制限がある中タブレットを利用した面会の実施やライン通話でグループでやり取りを行ったり少しずつ状況に対応できるようになってきている。職員も出来るだけ利用者様に寄り添うように声掛けを行い不安にならない様支援に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成19年に開設したホームでは、今年度は管理者の変更という過渡期にあり、この1年管理者は職員とのコミュニケーションを強化し働きやすい環境へと一致協力しながら新たな体制作りに取り組んでいる。職員のかかわりの深さは最高齢102歳の生活に表出し、重度化傾向のユニットでは午後は休息の時間とし、入れ替りが進んだユニットでは歌や相撲の観戦等楽しく過されている。高齢化・重度化傾向にあっても地域の中で暮らし続ける基盤は構築し、入居者の出来る力や残存能力の引き出しは役割のある生活として生かされている。コロナ禍の中で、車中からのドライブや室内での行事等を楽しみ、面会の制限も有る中で、家族の不安払拭に継続して情報を発信し、入居者に寄り添い、「らしく」に注視したケアに取り組むホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が身近になるように現在の理念を簡潔にわかりやすくするために職員間で改善の話し合いを行っている。	今年度は管理者の変更という過度期にあるが、家族や職員とのコミュニケーションの強化により新たなホーム形成に取り組んでいる。入居者が“らしく”暮らせるように、職員は優しく寄り添うこと等を掲げ、その理念をケアに直結させる中で、職員のみならず家族等にも更に分かりやすい理念としていく意向である。	入居者は102歳を筆頭に高齢化するなかで、管理者を中心として一致協力しながらケアに邁進されている。理念が更にケアに反映できるよう具体化したいとの意識の高さも聞かれ、職員全員で検討いただき、入居者の日々の生活に生かさせるよう具体的な理念を作り上げて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の催し物は開催されず参加できていない。	地域行事も制約され地域へ出る機会が薄れるなかで、高校の実習生を受入れたり、キャラバンメイトとして小学校へ出向く等今できる事で地域に関わっている。寒い時期には外出もままならないという地域性もあり、気候や入居者の心身の状況を見ながらドライブや初詣等地域に出る機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小国郷あんしんネットワークで認知症カフェに参加している。今年度もコロナ禍で活動はなかった。キャラバンメイトとして活動しており今年度は小学校の養成講座に参加した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや動きについて報告するほか、施設としての課題なども議題に取り上げサービスの向上に活かせるよう心掛けた。	運営推進会議はコロナ感染症の状況を見ながら、対面や書面審議としている。書面審議では報告書を配布し、質問や意見を連絡頂く体制としている。利用者の状況・職員配置・ヒヤリハット、入退居や看取り介護実施・身体拘束状況報告から苦情まで包み隠すこと無く記している。防災訓練の報告により、開催時期等の要望が委員から出される等運営推進会を有効に活用している。	議事録により透明性の運営体制であることが確認された。家族との情報の共有化として、参加の無い家族にも報告されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼やいろんな情報についてもメール等で知らせていただいている。事業所からの確認事項でも話しやすい関係を作ることが出来ている。	運営推進会議を通じた情報交換や、行政からのメールを通じた情報発信に不明な点等には適宜連絡を取る等担当部署と良好な関係を築いている。また、町と社協主催の認知症カフェに参加しながら、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に研修会、アンケート実施にてケアの再確認を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 ・センサーマットの使用に関しては家族に周知説明後、同意いただき使用している。毎月のケア会議時に取り外しについての意見交換を行っている。	身体拘束等適正化のための委員会での研修会やビデオでの研修、“その人らしさを目指して”についての回想や、アンケート調査を行い、結果について周知している。転倒リスクの高い入居者対応としてセンサーマットの使用については家族の同意を得て、会議の中で使用の有無を見極めている。運営推進会議の中で業者の防犯システムを中止した事案をもとに防犯対策を検討し、職員間でも意見交換を行い、危機意識を持って業務に当たることを申し合わせている。	職員は拘束や虐待の無いケアを徹底し、言葉使い等も注意喚起し、不穏時の対策等に様々な工夫が取られている。今のところ離設等はないが、立地的に今後も所在確認を徹底されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて研修会を開催し自己の行動や言動の振り返りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は権利擁護に関する研修会は開催できていないので再度学ぶ機会を作り成年後見制度についての理解を深めるよう努めたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、または改定等の際は料金体系や加算の内容について説明している。また負担が生じる際は事前に説明を行い不安や疑問点について話し合い理解や納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表者よりご意見を頂戴したり、面会の際に「何かないですか」と意見や要望を聞いたり職員に伝えやすい雰囲気を作っている。	入居者と職員との良好な関係性が何でも言い合える環境が出来ている。運営推進会議を問題提議の場として、家族から出された問題点等を検討している。又、家族会を開催し、ホームの今後の取り組みについて説明している。コロナ禍で訪問の制約もあった1年であるが、家族の不安払拭に写真付きで個別に1ヶ月間の様子を発信している。また、面会時に家族に要望等を聞き取りしサービスに反映させている。	職員体制の変更について、新年度に当り職員紹介を新たに発信する意向である。家族への発信により、顔の見える関係性が更に家族との関係性が深まることと期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で気付いたことをその都度リーダーや管理者に伝え都度検討し対応している。	管理者の変更という過度期にあり、職員が働きやすい環境や意見を出しやすいように職員とのコミュニケーションを強化し、新たな体制作りに職員と一体となって取り組んでいる。職員の意見にはまずはやってみようという試み、業務の中でやりやすい事案はその日のリーダーや管理者に申し出る事としている。有給休暇等職員同士が調整できる関係性が出来ており、風通しの良い関係性である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員の年間目標に対しそれぞれ自己評価した結果を踏まえ面談し、今後取り組みたいことや要望など管理者を交えて職場環境をはじめ条件整備に努めた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当、法人が年間計画で実施しているスキルアップ研修については、新型コロナで開催数が少なくなったため、当法人が視聴権を購入しているフォローアップ研修ネット配信を活用しスキルアップを図った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当、法人のスキルアップ研修及びフォローアップ研修をはじめ小国郷医療福祉安心ネットワークの会議参加要請を図るなど同業者との意見交換を図ることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際は、アセスメントはもとより不安を与えない様コミュニケーションを図りなじみの関係を作り不安や困りごとを理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から、家族の立場に立って接するように心がけ、家族の思いを十分に聴き、要望を伝えやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人や家族の要望を聴き必要としている支援について担当者・ケアマネ・ユニット職員で都度話し合いサービスを提供している。ケア会議でサービスが充足しているか検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の力が発揮できるように、洗濯干しやたたみ、レクリエーション活動など一緒に作り上げ助け合い、楽しみながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の面会制限がある中で定期受診の際にはご家族にも同行して頂くなど入所されている中でも共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外に出る機会が減っていましたが、ご本人の希望もあり行きつけの美容室へ連絡を取りお連れするなど出来るだけ関係が継続できるように努めている。	馴染みの場所への外出は出来なかったとしているが、コロナ感染症の状況によっては美容室の利用や、通院時の自販機の利用、初詣等徐々に支援できる状況になってきている。ご夫婦での入居、携帯を持込み、家族に電話される入居者等今出来る限りの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションや催事を通してお互い が興味を持ってもらえるように声掛けを 行ったり、孤立しないようにスタッフが常 に見守り声掛けを行ったりトラブル回避 のため加入し関係性を保てるように努め ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、相談や 支援に応じる姿勢を示しながら経過を見 守り必要に応じてお尋ねしたりしてい る		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人の思いを聞き暮らし方の意向や 思いを把握するように努めています。自 分で伝える事が出来ない方は担当者や ケアマネを中心にスタッフ間で話し合い 検討を行っている。	職員は入居者との会話により思いや希望が 引き出せるようコミュニケーションを図ってい る。自分の思いを伝える事をためらう入居者 や、伝える事が出来ない方も多くなり、どう したら喜んでもらえるか等職員が検討し、日々 の生活のなかでの気づきや観察の結果を共 有している。また、入居者同士の会話の中で 「〇〇へ行きたい」などの思いを把握してい る。把握した事案は職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所時だけでなく継続してご家族とのコ ミュニケーションを図りご本人のこれまで の生活歴や暮らし方など把握できるよ うに努めている。また前ケアマネや利用し ていたサービス事業りよからも情報を収 集できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックを行うことで状態の 観察をし、現状の把握に努めたり、常 にスタッフ間で情報の共有が出来る様に申 し送りの際など話し合いも行い把握に努 めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが担当者やご利用者をケアするスタッフ全員と課題やケアのあり方について話し合い意見交換を行ったり、面会の際などご家族からの思いを聞き出来るだけ介護計画に反映できるように努めている。	初回のプランはまず仮のプランにより様子を確認しながら、本人・家族の意向等を聞き取りする等華族を含めて話し合い、正式なプランを作成している。プラン実績表により毎日プラン通りに行われたかをチェックするとともに、ケア会議にて短期目標毎の評価により継続の可否を見極めており、具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況や催事での行動・表情の記録を行い、普段と違う行動や表情が見られた時は記録に残すとともに申し送り時やノートを活用した情報共有を図っている。それをもとにケア会議にて介護計画の見直しにも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で自由が利かない事もありその時のニーズに応えられる様支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で厳しい状況ではあるが今年度は高校生の実習の場の提供を行った。スタッフ以外の人とのかかわりがなかったので期間中は楽しく過ごすことが出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなくご家族と相談しながら状態に応じた選択が出来るよう支援している。	全入居者が地元の公立病院をかかりつけとして1名の訪問診療を除き、それぞれの担当医のもとへ受診に出かけている。受診に付き添う家族もおられるが、職員が主となり同行し、遠方の専門医へは天候等状況を鑑み、オンライン診療に切り替えて支援している。受診結果に変化がなければ、毎月発行する便りで報告し、少しでも気になる点があれば即時家族に報告する体制としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師には常に疑問を問える状況と共に訪問看護への相談を交えて情報提供を行ったり、どのような伝え方で受診がスムーズに出来るかなど相談しスムーズな受診へ繋げるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で直接病院看護師と話す事が出来なくなった。その中でICへの参加、訪問看護師を通して主治医と連携を図ったり、入退院時の情報シートを活用し情報交換を行っている。退院の状況に関しては地域連携室のSWIにも定期的に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りは現在契約されている方のみとなり、現状施設で看取りを行わないようになりました。状況についてもご家族へ説明をさせて頂きました。現在急変時は病院へ入院する方向になっています。	ホームの看取り支援について、家族会の中でホームの方針を説明している。看取りまでを希望し、既に契約をかわしている方を最終として、新たな支援は行わないとしている。看護職員がいない状況を含め医療支援が出来ないことを家族に納得してもらい、ホームに出来る最良の支援に努め、状態変化によっては医療機関への移行としている。	最期までの支援は行わない方針であるが、日々のバイタルチェックや日に3回の体温チェック、表情や行動の異変等を見逃さないケアに努められている。今後も継続した支援により、入居者が少しでも長くホームでの生活が送れることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルを作成し周知で来ているが、不安を感じる職員もいる為その都度対応する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し今年度も夜間を想定した訓練を実施し改善点など話し合い改善した。災害時などの物品常備出来ている。避難が必要な際の最終移動場所の確認も出来ている。	総合避難訓練は火災想定ばかりではなく、同法人のグループホームと合同で水害等の自然災害を見据えて実施し、ホームが高台にあることから避難先として受け入れる体制を確認している。1ユニットだけが調理にガスを利用している事から、火元を離れる際には必ずチェックをしている。また、普段の掃除にはコンセント周りの安全点検を行う等毎日の掃除も火災防止の一環としている。	備蓄の賞味期限を確認し、3日分を新たに注文する等危機意識を高くして臨んでいる。今後も、職員が有事に慌てない取り組みが出来るよう継続した訓練に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声掛けを行うよう努力している。入浴は同姓での対応を行うこともある。	入居者の尊厳について虐待防止及び身体拘束の勉強会の中で学ぶ機会を持ち、共有認識としてケアに努めている。ご夫婦での入居者には下の名前で対応し、これまで呼ばれていた呼び方で安心してもらうようにしている。排泄時の対応等自尊心に配慮し、入浴の同姓介助は出来る限り対応し、個人情報の保護には十分な注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境をつくり意思表示や希望を伝えやすい場を提供したり、わかりやすい質問で出来るだけ自己決定が出来るよう努めている。言葉で表現できない方に関しては日々の申し送りやケア会議の際職員間で情報を共有し出来るだけご本人の望みに近づけよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意向に沿いペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や休息後の整容や散髪・毛染めなど行っている。同じ服の着回しにならない様更衣の際は注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で感染対策の一つとして食材切はしなくなった。片付けで食器洗いを一緒にしている。誕生会や行事の際旬の物やご本人の好まれる物をメニューとして提供している。	現在、コロナ感染予防として食事は法人厨房で作る料理を昼食及び夜食は活用し、ホームでは炊飯と味噌汁を作っている。入居者の嚙下状態に合わせた食形態を検討し、本人のペースに合わせて支援している。入居者が食に関わることは無いが、食後の片付けや食器洗いを職員と共にしている。入居者の嗜好を調査し、代替食を提供したり、行事食では楽しみのあるメニューを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量・水分量の把握を行い食事形態はその人に適した物を提供している。嚥下状態に合わせてとろみを使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	きずな歯科との連携で口腔内の健康維持は行えている。毎食後の口腔ケアもできるだけご本人に歯磨きをして頂きながら必要に応じて舌ブラシ・口腔ティッシュを使用し仕上げを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し個々の排泄パターンの把握を行いトイレの声掛けを行っている。またコストについての検討を行い使用するパットや交換時間の見直しを行った。	入居者個々の排泄パターンを把握し、誘導や声掛けにより日中はトイレでの排泄を基本としている。中には自立した方もおられるが、自身の安心にと下着に尿取りパットを併用される等本人の意向を尊重している。排泄用品のコストを検討し、体調や時間帯による使い分け、夜間帯のポータブルトイレ使用には、朝から洗浄・消毒を行い衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供している。テレビを利用した体操の実施にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施している。通院前日の入浴も行っている。ご本人の体調などによって日にちや時間の変更など行っている。ご本人やご家族の希望で週3回の入浴も行っている。	書類上(契約書)では週3回の入浴支援を謳っているが、入居者の状態によっては負担が大きいため個別に検討している。入浴されない日には清拭や更衣で対応し、通院前日には入浴を支援している。入浴拒否には時間や日にちを問わず無理には誘わず、こどもの日の菖蒲湯や冬至の柚湯等時節に応じた入浴とすることで楽しんでもらっている。車椅子利用者も湯船に入り温まってもらうよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温調整や寝具調整を行い入眠支援に努めている。冬場は湯たんぽを準備したり暖かい飲み物の提供を行うことで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬の目的や副作用など薬剤師からの説明を看護師より職員へ情報提供している。症状の観察を行い服薬後の変化のつく人に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干し、たたみなど役割としたり、催事に参加していただき楽しみや気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候を見ながらドライブの計画を立て楽しめるように努めている。外に出たいと言われる利用者と一緒に隣のお地蔵様のところまで行き手を合わせることもあった。	入居者の馴染みの神社への初詣や、5月には温泉街の鯉のぼり、秋の大銀杏等四季折々に外出を支援している。受診帰りの買物は楽しみの一つでもあり、立地的に冬場の外出は難しい状況にもあるが、コロナ禍という中で今出来ることで支援している。	ユニット間の交流を少しずつではあるが再スタートさせている。中庭の活用やホーム周辺の散歩等支援されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時お金を持参され自動販売機で飲み物を購入されることもある。希望があれば買い物支援も行うが、現在は頼まれることが多くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればこちらから電話をしお話ができるように繋いでいる。ご自分で携帯を持たれている方もおられコール時はこちらから電話があっていることを伝えることもある。ラインのビデオ通話を利用したやり取りも徐々に増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう壁面に飾りなど利用者様と一緒に作成し掲示している。季節に応じた室温調整を行っている。	3月といえども当地域はまだ寒い日が多く、職員は室内の温度管理をこまめに行いながら、入居者が快適に過ごせる様配慮している。入居者自ら共有空間の掃き掃除をされたり、食後のテーブル拭き、手洗い場の水はねを拭かれる等気付いたところを手伝われる等共に生活する場として位置づけ、季節柄桜を飾ったり、おひな様等が季節感を醸している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍で密にならない様に配慮しながら気の合う方と過ごせるように環境づくりを行っています。独りになれるような空間づくりにも努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものなどあればお持ちいただくようご家族へ声掛けを行っています。物が多すぎて混乱される方には必要なもの以外を預かることで居心地よく過ごして頂ける様努めています。	新たな入居者には、これまで使いた品を持ち込んでもらうことで、馴染みの環境として生かされ、不安無く過ごす事ができることを家族に説明している。テレビやタンス等の家具類や身の回りの日用品、写真等の小物が持ち込まれているが、購入する必要は無く、前の入居者が置かれていった物を活用することで小物や衣類等を持参された所もある。職員は転倒等あらゆるリスクや入居者の使い勝手を考慮したベッドや家具の配置や、足元にマットを敷く等住環境作りに職員の気づきが活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置などご利用者様に合わせた配置を心掛け転倒予防にもつなげるよう工夫している。		